

行田企画TEKUTEKU活動報告

テーマ ●「足袋蔵のまち行田の中心市街地活性化を考える」

日時 ●2008年6月21日(土) 11時30分～17時

企画趣旨●行田市は、戦国時代に石田三成が水攻めした忍城、水城公園等があり、歴史的資源を持つ街です。また、江戸時代後期から昭和中期にかけて建設された近代産業遺産の「足袋蔵」が残る街でもあります。しかし、全国の地方都市と同様に中心市街地の衰退が課題となっています。そこで、地元NOP足袋蔵ネットワークの方と「足袋蔵」の活用事例や忍城下の街を見て歩き評価することで、行田旧市街地の活性化策を探ろうというものです。

コース ●行田市駅～忠次郎蔵(昼食：手打ち蕎麦とゼリーフライ)～牧禎舎～時田家～足袋とくらしの博物館(牧野本店)～武蔵野銀行行田支店～保泉蔵～大澤久右衛門家～栗代蔵～十万石ふくさや行田本店～翠玉堂～小川源右衛門蔵～長井写真館～新町会館～今津印刷所～大澤蔵～松坂屋蔵～足袋蔵ギャラリー門・Cafe閑居(意見交換会)

参加者 ●井手幸人、海老塚良吉、大熊孝、小川久男、梶川義実、川崎啓、栗原徹、黒澤学、呉祐一郎、佐藤晶子、持斎康弘、杉本久美、寺本理恵、遠井文大、中村博行、溝辺正浩、峯岸美智子、毛須知之、矢板橋芳生、山中洋子、若林祥文・コーディネーター：古里実

・案内：朽木宏、中島洋一(NPO足袋蔵ネットワーク) 以上24名

【参加者による評価】(評価点の計算：とても良いA=5点、良いB=3点、普通C=1点、良くないD=1点とした平均値) *内部を活用した施設、内部見学できた施設が高得点となっています。

1 忠次郎蔵 AAAAAAAAAAABB【4.73】



▲忠次郎蔵



▲忠次郎蔵2階小屋組

A:蔵が利用されているので、生きている感じがした。行田の町歩きの起点機能、情報発信機能を充実させると良いと思う。そばはとても美味しかった。

A:そばやとして、地元の方が入っている雰囲気が良い。NPOの活動拠点として活用されていることも評価できる。南側を開けて活用しても良いと思う。

A:重厚な店蔵であり、NPOがそば店として活用することで、一般の人がその内部までじっくり見

ることができるのがいい。手打ちそばとゼリー・フライも美味しかった。

A:「足袋蔵」、「まちづくり」、「NPO」などのPRをするためにも、拠点が必要で、その役割を担っている。

A:道路に面して開けた建物を上手く使っており、店の中が見通せる事で入ってみたい！！という気持ちがわく。

A:蕎麦打ちが見えるので、つい覗きたくなる施設。奥の戸をあけ庭が見えるようになるとさらにいい。

A:蔵を食料品店に活用しているのは、非常によい。そばと蔵のマッチングが非常によい。

A:お店の雰囲気がよく、おそばもリーズナブルかつ女の子が好きそうな和の小物があり、よかったです。夜の営業もできると客単価も上がりよいのかもしれませんが、立地・需要的に難しいでしょうか。

A:店先での手打ちの実演もあり建物の雰囲気と共に立ち寄りたくなる活用法だと思う。

A:外観が立派。屋根の頂上が良く見えて魅力的(丸い模様がデザインの的にも良い)。店内雰囲気良し。

A:建築と店舗の趣が合っていて、理想的な活用であると思った。箆笥や金庫など家具も揃っていて素晴らしい。2階を見せる空間として整理することができれば、より良いと思う。

A:古い建物を人が集まる飲食店にしたことがとてもよかった。昔の建物を活用できている良い事例だった。

A:蕎麦屋として利用されているのがとてもよかった。建物の感じも良い。

B:大正時代の店蔵の再活用は貴重である。

B:ほぼ順調にそば屋さんとして運営されている。一般客だと十分な説明が聞けないのでは。

1 牧禎舎 ABBBBBBBBCCCC【2.54】(内部未見学)

A:街歩きの始め施設なので情報館等(まちの情報や今までのイベント情報や、電車時刻等が検索できるPCを整備した)に活用できるいいですね。

B:とても落ち着いた感じで、ディテールが丁寧に作られている民家という印象。

B:趣きある木造建築なので、お茶会や一般の方が使う談話場所として、幅広く活用できると思った。

B:庭を手入れし、お話にあったように住宅が大人の寺子屋として使われるともっと建物が生きてきそうである。

B:庭の作りが小さいながら素敵でした。単発的なイベントに使うより、ライフラインがしっかりあるので賃貸住宅にして稼いでもらう手もあるのでは？月額賃料8万円で貸しつつ、建物・庭の施設管理委託を年間10万円で契約するとかいかがでしょう？

B:趣のある日本建築は魅力的であった。店舗やイベントに利用しても良いが、住宅として利用されてもよいのではないかな？

B:最近空き家になったばかりのようなので、早めに活用方法が決まれば良いと思う。

C:建物としては、なかなか味わいがあるので、その活用の仕方がポイントになると思う。



C: 昭和初期の雰囲気がある住宅だった。庭が小さいながらもちょっとした休憩ができたりすると良いと感じた。

C: 武家屋敷の名残と聞いて、単なる古家屋から文化財のイメージに変わった。説明が欲しかった。

3 時田家 AABBBBBBBBBBCCCC 【2. 75】 (内部未見学)

A: 色合いがとても印象に残る建物でした。裏のほうが表のような建物。

A: 板張り壁と漆喰のバラスが良い。

B: 通りに面し、直行する通りのアイストップにもなっていて、街の景観としての役割は重要。また、住宅部分との対比や、裏側から見た風情もなかなかいい。

B: お寺から拠点の忠次郎蔵への通りの突き当たりという重要な位置であることを活かすべき。B: 珍しい作りなので、外観を見るだけでなく、中もみてみたいと思う。

B: 竪樋が凝っている。

B: 文化財の指定が無いが、NPOで看板を設置したことがとても親しみを感じた。

B: いい感じ。

B: 蔵と近代的な建築の並びが興味深かった。内部を見ることができなかったのが残念。

B: 建物内部を見たい。

C: 特長のある外観は良かったが、中が見れず、少々残念。

C: ファサードは存在感がありました。中がどうなっているか興味あります。

C: 立地もよく通りに面するので利用してほしい。



4 足袋とくらしの博物館 AAAAAAAAAAAAAAAB 【4. 88】



A: もの作りの現場が見学できるようになっている博物館はすごい。

A: 魅力の一番は、足袋を作る工程が見られたこと。町のイメージを足袋とするなら欠かせない。

建物も趣きある工場でとても良い。

A: 足袋のできる工程がその場で見れてとても感激しました。ミシンにこれだけの種類があるのと、職人さんに直接話を聞きながら行田の産業史を勉強できる施設は貴重。

A: 足袋の工程が分かり勉強になるとともに、ハンドメイドな温かさが非常に良く伝わった。足袋と市民との暮らしや生活の関わりがあるともっと良かった。

A: 「動態保存」という考え方がすばらしい。職人さんの作業や生き活きた説明ぶりは感動的。入場券が足袋の商標である所も良い。「製品は買う身になって作りましょう」の看板もものづくりの現場を示している。

A: 建物の魅力も大きいですが、古い道具類や、実際に足袋を作っているのを見られるというところが、非常に素晴らしい。

A: 職人さんが実際に足袋をつくり作業を見せてくれう、ライブ型博物館が良い。建物を耐震補強していることも評価。

A: 伝統産業を見せる、体験させるという模範的な施設で、すごいです。

A: 足袋製作の実演に感激でした。解説があると楽しさ倍増なので、技能士(?)さん方がいかにコンパニオンのセンスを磨いて接客していただけるかでお客さんの満足度は変わると思う。

A: 足袋作りを間近で見られて感激した。行田市内で足袋を豊富に置いている店がここしかないのは、大変残念な事だと思う。

A: 内部活用(動態展示)が良い、足袋のことが良く分かった。耐震補強している。脇の神社も合わせていい感じ。蔵も立派。

A: となりの神社と一体的になると更に面白い。

A: 足袋製作の実演は他に例を見ない。

A: 職人の方が、昔と同じ方法で足袋を作っていることが貴重であった。今後活用の仕方によって幅がでてくると思った。

A: 作業風景がみれて良かった。

B+: 体験型の資料館は大変興味深かった。一方で「蔵」としての印象は薄く、その点を磨けばより洗練されると思う。

5 武蔵野銀行行田支店 AABBBBBBBBBBBCCC 【2.88】 (内部未見学)

A: ランドマークとして、とてもいい施設です。周辺の建物も、少し協調した建物に変わるとういんですね。

A: 素敵な外観の街のランドマークだと思う。うまく耐震補強をして、ずっと銀行として活用して欲しいと思う。

B: レリーフが洒落ており、洋館の魅力が感じられる。駅前通りと125号の交差点に位置していることから、中央部であり行田の顔となる。まち歩きのコースでも目を引くスポットであった。

B: 行田唯一の石づくり建築。デザインも良く非常によい。ただ、周辺の街並み景観が統一されてなく、建物を引き立てるような方策も必要と思う。

B: 初期RC建築ということで、外観も立派である。地域に根差した企業である地方銀行の支店と



して利用されている点も良かった。

B: 貴重な当時の銀行建築である。

B: きれいに使われている。平日、店内に入ってみたかった。道路の反対側から見ると、中心に街路灯が建っているのは残念。

B: いかにも古い銀行らしい洋風建築だが、丸いレリーフなどの凝ったディテールは、なかなか他では見られない。

B: 昭和初期に銀行として建設され、今も銀行として使われていることが良い。軒蛇腹やレリーフの入った円形の羽目板、縦長の格子窓に味がある。

B: 往時の経済的繁栄を伺わせる展示などがあるといいのでは。

B: 装飾が良い。増築部、銀行の看板、竖樋が残念。

B: 街角に建つ品格のある建物。もっと、存在感を出せないか。

B: いい感じ。

C: 交差点にあることで、街のなかで目立つ建物だった。

C: 比較的建物がしっかりしていて利用できるかと思ったが、耐震補強が大変か。

C: 場所がよいので、地域のシンボルとして残したい気持ちはわかりますが、企業努力に頼るのは酷な気がします。なにか公的な使い道 & 残し方を考えられないか……。

5 保泉蔵 AABBBBBBCCCCC 【2.43】 (内部未見学)

A: いろいろな年代の蔵が棟続きで面白い建物だと思う。

A: スタンプラリーには協力してくれる。

B: 短冊状の敷地に奥行き深く、種類の異なる蔵が並んでいるのは迫力がある。道路拡幅で前面が切りとられたとはいえ、ファサード正面にその面影を望めないのは残念。

B: 通り沿いの建物の再改修ができるといいですね。建物に入れないので隣の細長い駐車場に以前あった建物のレイアウトなどがわかるようになるといいですね。

B: 外観はいい感じでした。

C: 外からしか見ることができなかったのですが、中の様子が分からなかった。建物のラインが綺麗だった。

C: 様々な時代の蔵が並んでいるのはなかなか面白いが、通りに面したファサードが普通の建物のようなのが残念。

C: 蔵が細長い敷地に並んで建っているが、足袋蔵としての印象も薄いだけに、外観の見学では何だかわからず面白みに欠ける。

C: 表側が、改造されており、残念。反対側は昔水路だったとの事。昔のイメージが伝わらない。

C: 中の通路がいい雰囲気なので普段から開放したい。



6 大澤久右衛門家 ABBBBBBBBCCCCC 【2. 43】 (内部未見学)

A: 他の地域とは違う蔵と住宅のあり方なので、非常に面白いと思う。かしこまって食事をする場所なんかいいのでは。

B: 軒の高さが低く、重々しい印象であった。半蔵造りがはっきりとしており、表と裏を見ることで2度楽しさがある。

B: かつての栄華を思い起こさせる。隣の敷地にあったお稲荷さんの重厚さは火災への恐怖の反映かと思った。

B: 説明して頂いた豪商一族の歴史が興味深く、歴史と共に是非内部も公開できるまでに改修してほしい。

B: 立派な木造家屋と蔵だが、見て評価するとなると、塀が高すぎる。

B: ひっそりとした場所で、使い道が難しそう。家の中が見てみたい。

B: 建物内部が見たい。

B: 外観はいい感じでした。

C: 解体せずに、修理に利用されるとよいが。

C: ブロック塀越しにしか望めず、その良さがなかなか伝わらない。

C: 外からしか見ることができなかった。

C: 住宅としては非常に立派だが、通りに面しておらず、街の魅力に繋がってこないのが残念。



7 栗代蔵 ABBBBBBBBCCCCC 【2. 60】 (内部未見学)

A: 行田市の蔵の中でも最も古いものの一つのようなので、できるだけ保存して欲しいと思う。もともと倉庫なわけだし、適当な広さがあるから活用方法もいろいろ考えられる。

A: 新たな活動の拠点として位置的にもいいですね。

B: 保泉蔵の矩形の敷地と栗代蔵を結ぶ横櫛的な露地ができるといい。休憩場としての活用はあるのでは。

B: 駅に近く、漆喰壁が目立つので、是非、観光案内所、街見て歩きガイドの拠点になると良いですね。

B: 今後の展開が楽しみだ。建物はきれいだ。

B: 床下の換気の蓋がデザインされていてよかった。通りから奥に入ったところで分かりづらかったが、落ち着いた雰囲気のあるところだった。

B: 蔵としての美しさを、近くでよく見られるのはいいが、駐車場の中にポツンとあるのは、ちょっと寂しい。

B: 蔵としてはきれいだが、ぽつんと残っている感じ。

C: 保存状態がよいと思う。



C:活用できると良い。

C:がらんとした場所に建っているのが悲しい。今後の活用方法により、かなり印象が変わってくると思う。まち歩きの情報窓口として使うなら、立ち寄りたくなる何かが必要だと感じた。

8 翠玉堂 AAAAAAABBBBBBBB【4.07】

A:こだわりの建物にこだわりのパンで、蔵活用のよいビジネスモデルになっている。

A:店主も店内も感じがよい。購入した食パンはずっと、よい香りがしていた。こんな店が増えると楽しくなる。

A:若い方がこだわって働く場としての活用は素晴らしい。イチジクパン美味しかったです。

A:パン屋の利用が雰囲気があってとてもよかった。住んでいる人にも初めて来た人にも価値は高い。

A:足袋蔵の活用と、パン屋という食の楽しみ、若い人の経営という事で非常に良い。

A:地元出身の若者が天然酵母のパン屋さんを経営しているのはうれしい。

A:にぎわっていてよかったです。

A:もっと活用できる。

B:小さいけれど、なかなかセンスのいいファサードで、パンも美味しそう。こういう感じのよい店が、街の魅力にとっては重要。

B:綺麗に改装している。パンもおいしそう。

B:地元の人が買いに来られるパン屋として利用されることで、建物が身近な存在になったと思った。

B:外観は簡素な雰囲気だが、洗練されていて良いと思った。

B:戦前建築の再現を思う。

B:デザインがなかなか良いが、両側との釣り合いが取れていない。残念。



9 十万石ふくさや AAAABBBBBBBBBB【3.38】

A:建物を改修して、店舗として利用されていることがよかった。利用されることによって、建物が街に馴染んでくると思った。

A:十万石ブランドふさわしい蔵の活用。行田の土産物屋の代表格。歴史性が非常に感じられ良い。

A:古い蔵の雰囲気を活かし、伝統のある菓子屋を演出している。お饅頭もおいしかった。

A:なまこ壁はうそとのことでしたが、雰囲気はありました。

B:重厚な黒塗りの店蔵は、街の中でも非常に存在感があり、そこで売られている十万石饅頭もとても美味しかった。

B:しっかりとした建物を菓子店として良く活用している。



B: 明治時代の店蔵の再活用は貴重である。

B: 頑張っで欲しい。できたら、お菓子やケーキを蔵の中で、あるいは蔵を背景にオープンカフェでいただけると、なおいいです…。

B: テレビでもお馴染みだけに、ナマコ壁の印象が非常に強い。一方鬼瓦や2階の重厚な造りを見ると、行田を代表する店蔵としての役割はとて大きいと思う。

B: 重層な構えの蔵であるが、なまこ壁はいただけない。

B: 饅頭は美味しかった。確かに、ふくさやだけをみれば、ナマコ壁も素人は「そうか」と思ってしまう。

B: 江戸時代からの足袋蔵が、行田銘菓十万石饅頭のお店に生まれ変わって、すっかりなじんでいる。行田に本来ない「なまこ壁」が改修工事で付けられてしまったのは残念。

B: なまこ壁(地元ゆかりのものでない)の話を聞いて、ちょっとトーンダウンしました。

B: とて立派な蔵。なまこ壁と看板の柱は残念。

B: なまこ壁はやめたほうが良い。

C+: 表が非常に立派な蔵である。店舗内部はあまり蔵の印象は薄い。

10 小川源右エ門蔵 AAAABBBBBBBBBBC 【3.40】

A: アーチ状の入口がよい。翠玉堂のパンをつまみながら、ワインを飲みたい。

A: 酒屋さんの蔵はやはり一杯できるようにしてもらいたい。

A: 地ビール工房の案に賛成です。小さい市場で成り立つ小さいことから始めるのがよいと思います。

A: スタンプラリーの会場に使用されるくらい協力的な所有者のようなので、日常的にも蔵を開けてほしいと思う。

B: レトロなものがたくさん詰まっている感じがする。石蔵は回りに見当たらないので、まちに色々なものが残っている！！という意味でとても面白い。そのままお店としてもお洒落な感じでよいのではないか。

B: 大谷石の蔵として特長があり、外観は非常によい。

B: 石蔵に「キッコーマン」などのプレートが良く似合う。入口部分のアーチがとて美しい雰囲気、ワインバーにするとよさそう。

B: 入り口の石のアーチがよい。

B: 大谷石がよい感じ。看板、ポスターがレトロでよい。

B: 建物の中がとて涼しく快適だった。昔の看板などレトロなものが保管されていたので、ギャラリーなどに使われるとよい。

B: 今回初めて、奥が見ることができた。活用が出来る。

B: 普段も極力、内部がみられるいいですね。



C: 入口部分のみ見学した為、特に印象はなかった。店主のコレクターを魅せる工夫を凝らせばより良くなると思う。

1 1 長井写真館 ABBBBBBBBBCCCD 【2. 54】 (内部未見学)

A: 当時を忍ばせる風情を感じる。

B: 映画の中から飛び出してきたような建物であり、細い道にふらっと入ってみると出会える。すてきな写真館はとても魅力的である。

B: 古い佇まいの写真館で味がある。

B: 昔の写真館の雰囲気があるまま残っているところがよかった。中に入れなかったが、中をぜひ見たいと思った。

B: 緑色の外壁と鋭角の屋根が魅力的であった。中に入れなかった事が残念。

B: 板張りのファサードや屋根の形状など、いかにも洋館という風情。所有者が代わっても写真館として使われているというのがいい。

B: 隣の長屋をうまく改修するとより魅力的になる。

B: 手入れが必要に感じた。町歩きコースに、「ここで写真を撮る」を入れると面白いかも。もちろん、有料で。

B: 木造洋風建築として、もう少し維持管理に手を入れれば、もっと良くなると思う。

B: もうちょっと現役に見えるように使ってもらえるといいですね。

C: なかなか良い木造住宅。手入れをすればよくなるだろう。

C: 建築自体は面白いかもしれませんが、鑑賞するには補修が必要か。

C: 雰囲気良いが、観光資源としては少し汚い印象。

C: ちょっと古くなりすぎていて、外からのみ感じでは普通でした。

C: もったいない。

D: 大正時代を感じさせる特徴的な建物であるが、老朽化しており、人気がない。新町会館も含め一体的に活用を検討した方がよいと思う。



1 2 新町会館 ABBBBBBBBBCCCCCDD 【2. 13】 (内部未見学)

A: 当時を忍ばせる風情を感じる。

B: 取り壊してしまうのはもったいないと思うが、管理が困難である現状がとても残念です。使わないと老朽化も多いので、こうしたまちの建物を扱う場合は、壊さなければいけないとなる前に、どうするかが非常に大切になってくるのだと感じた。

B: 一連の建物と改修すると面白い通りになるのでは。

B: 壊されてしまうのは惜しい。是非活用、再生して欲しい。

B: ずっと自治会集会所と使用されているので、地域の方々



には最も愛着のある建物ではないかと思うので、できれば直しなおし使ってほしいと思う。

B: ガラス窓の破損等があったものの、外観が印象的で、解体してしまうのは非常に惜しいと感じた。是非利用できるようにして頂きたいと思った。

B: 長井写真館と同様の面もありますが、雰囲気は感じられました。朽ちていく面を美しいと感じるにはどうしてもある程度の限度があるのではと感じてしまいます。

C: かなり老朽化。緑の屋根が印象的で良い。

C: なかなか味わいのある建物だと思うが、メンテナンスがあまり良くないのが残念。

C: 建築自体は面白いかもしれませんが、鑑賞するには補修が必要か。

C: もっと活用できるといい。

C: 残念ながら解体するしかないのだろうか。

D: 大正時代を感じさせる特徴的な建物であるが、老朽化しており、人気がない。長井写真館も含め一体的に活用を検討した方がよいと思う。

D: 手入れがされておらず、解体される予定であることがとても残念だった。少しでも残せるような方法がないか検討できるといい。



1 3 今津印刷所 ABBBBBBBCCCCCCC【2.20】(内部未見学)

A: 江戸時代からの印刷屋さんが存在するとは驚き！貴重な産業遺跡なのではないかと思う。

B: 江戸時代の店蔵として歴史性が感じられ、良い。しかし、老朽化が酷いように感じられ、商店街に唯一ある蔵として残していく方法がないだろうか。

B: 江戸時代の蔵が、今も印刷所として使われているのはすごいが、地味なので、知らないと通り過ぎてしまいそう。

B: オモテのガラス戸が残念だが、150年前のものとは思えない保存状態の良さを感じた。

B: 今、改修しないと危なそうな蔵である。レトロストリートに入る目印として旨く使えるといい。

B: 行田市内の最も古い蔵をアーケードで隠しているのはもったいない。

B: 痛みが目だってきた。

C: アーケードがじゃま、傷みが激しい。普段から中を公開できると良い。

C: 通りに面しているので、人に見せる工夫ができるとよいと思った。

C: 場所がよいので手入れをしてお店になるとよいのでしょうか、お金がかかりそうですね。

C: 雑然としており、古めかしさだけが残っている印象を受けた。まちの活気の面で考えたら、少し古びたイメージにつながってしまうのが残念である。

C: 改修されて利用されることを期待している。

C: 普通の感じ。



1 4 大澤蔵 AAAAAAAAAAABBBBBB【4.38】

A:レンガ造の蔵を初めて見たが、趣がありとても良かった。中に入れていただき、蔵のシンプルさ涼しさの特徴を体感できたのも良かった。建物はまず、その空間に入れないと伝わりにくく、単にファザードの見学ではやはりもの足りない。

A:大変手の込んだつくりのレンガ蔵で、美しいと思う。品もあり大人が楽しめる空間だと思う。これからの活用方法に期待する。

A:きちんと造っていることが素人でもわかった。

A:扉のディテールがかっこいい。いろいろな活用がイメージできそうな蔵である。

A:窓や扉の細かいところにまで気を配ったつくりのレンガ造りの蔵である。登録文化財に指定されたと報道されたその日に中まで見せていただき感謝。

A:施主の建物のこだわりが見られる。蔵のみならず、隣の家屋も非常に良い。

A:持ち主のホスピタリティが良い。

A:とてもきれい。ぜひうまく使って欲しい。

A:外観の雰囲気もよかったが、中は涼しくとても快適だった。夜はバーなど、人が集まれるような場所に利用されるといい所であった。

A:そのときの話しにでていましたが、是非ショットバーの開業かスペース貸し等の利用を実現して欲しい。

A:外観がとても立派で、中へと興味がそそられる。立地的にお店にも使えそうだが、入り口へのアクセスが課題か(道路に面していないため)。

B:大通り沿いで上手に改装すればバーなどに利用できそうで、活用してほしい。

B:なかなか凝った造りのレンガ蔵で、その端正なデザインは、街並みに対して重要なアクセントになっている。

B:レンガが印象的、底が凝っている。裏の住宅も趣あり。外構をきれいにしたい。

B:煉瓦蔵は珍しく。

B:重みを感じるたたずまい。



1 5 松坂屋蔵 CCCCCDD【1.00】(内部未見学)

C:他の蔵の迫力から比べると、見学する蔵としては力がない。
C:モルタルだと、あまり蔵というイメージではないので、印象が薄い。

C:これも足袋蔵と言われないと気づかず通り過ぎてしまう。

C:蔵でないと言う家主の気持ちもわかります。

D:あまり魅力を感じない。



16 足袋蔵ギャラリー門・Cafe閑居 AAAAAAAAAAAAAAB 【4.88】

A: 2つの蔵と石造りのゲートによるファサードは、通りに対して圧倒的な存在感を示している。居宅を活用した café で庭園を眺めながらお茶を飲むと、非常に贅沢な気分が味わえる。

A: 蔵、名家の居宅そのもの、あるいはこれらを活かした事務所、Cafeの利用、ともに優れているが、何より敷地全体が庭園となっているような一体となった空間が素晴らしい。

A: お店の活用、ギャラリー共にとても素敵な空間でした。上手に良さを見せているので、それだけに人が集まりたくなる雰囲気がある。建物の古さの魅力にお洒落さが加わり、良さも倍増！！

A: 門をくぐった蔵の間の空間と、その向こうに見える、開いたように閉じた空間を使って何か空間の演出ができると面白そう！ Cafe閑居の庭を見て時間を過ごせるのはリッチ。

A: 蔵を見事に再生し、現代に古臭さを感じさせず活用されている。閑居は庭を見ながら一服でき、近所の人も遠くから来る人でも心地よい空間になっている。

A: 3階建ての蔵が立派、内部の改装も良い。Cafe閑居は内装、景観ともに素晴らしい。

A: 3階建ての足袋蔵は迫力がある。それを建築設計事務所に、さらに2階建ての蔵をギャラリーに、住宅を CAFÉ に、と見事に再生活用しているのが素晴らしい。表通りからそれが判るともって良いのだが。

A: 蔵という伝統建築物でありながら、庭や内装によりモダンな雰囲気があり、新しい活用の可能性をみた。現状として地域の人々に親しまれており、蔵発展事業の要としてこれからも存在してほしい。

A: 唯一の休憩処。暑さもあり、非常に心地良く感じた。商店街側から見ると、住宅地と思われ一見分からないため、誘導できる方法があればもっと良いと思う。

A: すべてにおいて、良かった。市民への認知度が高まり、稼働率が上がることを望む。閑居の庭を見ながらのコーヒーも美味しかった。

A: 閑居の広間はさまざまな和のイベント(お花、お茶、お香など)の拠点として使えるのではないのでしょうか。平日、休日と使いまわすプランを考えたいものです。

A: 中庭がとても落ち着いていて、ゆっくり時間が流れている雰囲気があった。休日など是非過ごしてみたい場所であった。

A: とってもよかった。また行きます。

A: 品が良い。

B: 落ち着いた雰囲気で寛げる。



1 7 行田の中心市街地全体の印象 BBBBBBBBCCCCC 【2. 23】

B: 足袋蔵、古い住宅、忍城下町としての面影など、歴史的資源が沢山散らばっている、磨けばもっともっと光る可能性のある街。

B: 良い素材がたくさんあるので、これからさらに磨きをかけて行って欲しい。

B: このような機会でもないと、まず行かない街だが、宝物がたくさんある街だと思った。忍＝行田をもっとPRしたい。

B: 人通りが少なく寂しい感じがした。シャッターがいやに目立った。足袋のイメージが少し薄かったのが残念。宝探しをするような気分でもち歩きができました。素敵な建物をより良く活用し、地元が集う、そんなまちができていたら楽しいと思う。まだ良さが生かせていない気がしたので、逆にこれからが楽しみです。

B: まちに来る前から、熊谷で乗り換え、行田市駅前に降り立ったときまで、情報が少なく不安になるほどだったが、案内を受けながら歩いてみると、裏路地に思いがけずすばらしいところが点在していて驚いた、というのが正直な印象。

B: “裏通りが魅力的な足袋蔵のまち”といった印象を持ちました。あらまちアーケードの樹木は緑のアクセントしてとてもよかった。

B: 裏は蔵が魅力的だが、集積していないので移動を楽しませる工夫が必要か？ 表は普通の地方都市、工作物の目隠しになっているモニュメントがよい。バスが命なのにバス停が貧弱。

B: 蔵が点在するものの、特徴的な街という印象ではなく、閑静な雰囲気があり、個人的には住んでみたい街という印象をもった。今後どのような街にしていきたいか、方向性によってどうにも変わる事ができる街であると思う。

C: 蔵や歴史的な建築物などの資源はたくさんあり、それらの活用も始まってはいるが、まだ、街全体としての魅力になるまで熟成されていない。

C: 多彩な年代の蔵が点在していて、見て歩きは楽しいが、中心市街地での買い物は楽しめない。人通りがほとんどなかったのが残念だし、皆どこに行っているのか気になる。

C: 人が歩いていない。時代に取り残された感じが、逆に懐かしさを醸し出している。

C: 休日の昼間でほとんど人が歩いていなかった。通りが広く、車にとっては便利な街であると感じた。

C: 高さ規制を行うこと。復元を少しずつでも手をつけること。全体のストーリーをつくること、歴史まちづくり法の適用はそのためにも良いきっかけになる。

ー: 経済力がまだ相当に残っていて、交通の便が悪いにもかかわらず、良い町と感じた。

ー: 天気予報が不安定だったせいか、街中にあまり人がいなくて残念でした。街中に住んでいる人が活動する場所が街中になのでしょうか。(逆に郊外のロードサイドにいろいろそろっているのでしょうか。)

1 8 どうすれば、行田の中心市街地の魅力がアップすると思いますか。

○蔵が点在しているのも行田の持ち味だと思った。まち歩きの中で、たくさんの蔵を見たが、次へ行きたくなる！！もっと見たい！！と思えるような繋がりがあると良いと思う。地元での盛り上げが少し足りていない？(人が少なかったのも)

○例えば、下記のように地区のイメージを少打ち出していくとさらに中心地の魅力がはっきりし

ていくのではないのでしょうか？

- ・足袋とくらしの博物館の周辺の建物群からなる足袋の歴史学習ゾーン
- ・写真館、隣の長屋、新町会館をうまく改修して昭和レトロ通り
- ・足袋蔵ギャラリー門と周辺の喫茶店とのネットワークを生かした飲食+イベントゾーン 等々

○文化財を活用した、まちづくりをしていく事が重要と思う。

○ぎょうだ足袋蔵ネットワークの活動をじわじわ広めていく。今回、朽木さん、中島さんの説明や特別に蔵の中を見せてもらったので、足袋蔵の価値や意義が解った。ボランティアガイドを育成し、要請に応じてガイドするとよいと思う。佐原ではそうしている。

○街の魅力は、短期間で創れるものではないので、蔵や歴史的建築物の活用やNPOの活動などを、ひとつひとつ時間をかけて積み重ねていくことが重要です。そういった活動を通じて、街の人々が自分たちで街を楽しむようになれば、結果的に、街は魅力的になってくると思う。

○忍城今昔地図に示されたような忍城城下町であることを、もっと街のあちこちに、案内する。その中で足袋蔵や古い住宅の魅力も説明してはどうか。中心市街地の整備を行う場合も城下町の骨格を意識させるような整備をしてはどうでしょうか。

○「足袋蔵のまち」どして現在までに取り組まれている活動は、それぞれ素晴らしく、この方向を続けて、また広げていけば、確実に魅力の向上につながると思う。ただし、蔵は点在しているので、これらをつなぐ裏の路地空間の魅力を向上する方法を考えるべきではないか。

また、他のまちに比べてより魅力をアピールするには、大変に魅力があり興味深い忍城や、その城下町として意識して歩けるまちを作ることが効果的であり、とても個性的なまちのアピールになるのではないか。

○ 漠然としていますが、最終的には、市民が活動する(時間、物を消費する)場所や仕組み・つながりを中心市街地に作り、みんなで楽しむことでまちの魅力が高まっていくと思います。

○街路灯があったので商店街組織があると思うが、組織として街の活性化を検討する必要もあるけれども、個々の店がやる気にならないと商店街の活性化は無理だと思う。また、点在する蔵のよさを分ける市民が増えることが、まちのPR力を高めることに繋がるのではないか。地元の人々の自慢話は説得力があり外の人々はその話に納得するし、地域を担う次世代の子供たちにも語り継いでいくと異年齢の交流ができる。自信を持ってまちの良さを語れば、自分の住む地域をよりよく住みやすくするための次の一手を模索する機運が高まると思う。話をしているうちに「あれもやりたい、これもやりたい」となっていくと思う。自分の住むまちに愛着を持つ人が増えると、まちが元気になると思う。

○蔵は活用の中身が重要である、商店を中心にバリエーション豊かに活用したい(カフェのほかギャラリー、貸し店舗、子供や老人の居場所づくりなど)。中島さんの言うように、とりあえず登録文化財数県内一を目指すのは宣伝になるのでよいと思う。

○市が積極的に協働を行うこと。

○実際に行田の街を歩いてみて、決して華美ではないが、時間の流れがゆるやかな居心地の良い雰囲気のある街であると思った。いまの雰囲気を損なうことなく蔵の活用を促していく為には、蔵を全面に押し出したまちおこしではなく、蔵が自然と人々の生活に溶け込むような活用を考えていく必要がある。その為には、まず市民の人々にとって暮らしやすい街にすること。そして、行田の雰囲気を気に入ってくれた人が訪れた際に滞在しやすい街にすることができれば、万人に愛される街になるのではないかと思う。建築の魅力は人々の生きた暮らしとの関わりが重要で

あり。決して、デモンストレーションのような観光客に向けて造られた空虚な空間を設けるのではなく、生の生活の延長に蔵がある街を作ってほしいと思った。

○歴史を体感でき、文化やアートを発信でき、交流・学習のできる場を設ける。

・コーディネーターによる中心市街地のトータルプロデュース、情報発信の実施

・従来の商売方法と異なる本物志向の個性的でニッチな商店等の育成

○足袋蔵のマップをいろいろな場所に置いてもらい、まず行田に来てもらうことが必要であると思った。情報の発信に力をいれること。

・古くからの地域資源があるので、その活用の仕方について、それぞれ住民を巻き込んで考えてみるのがいいと思った。そしてまず何でもやってみること、そして上手いかなかったら、また考えてやってみることが大事であると感じた。

・城跡であったことをもっと街の中で感じられるようなアイデアが出せるとよい。行田にしかない魅力がでてくると思う。

・蔵の改修に費用がかかるので、活用の際に補助や基金などを出すなどもっと活用できるようにするとよい。

○今回の足袋蔵めぐりによる街歩きは魅力的であったが、それは街や足袋蔵の来歴を解説してくれる案内の方がいたことと足袋蔵のなかに入れ、美味しいものを食べ、落ち着いた雰囲気の中で喫茶をできたことが大きい。人は何かしたいこと、目的があつて街を訪れ、散策をするわけであるから、それらが提供される状態にする必要がある。ツアーガイドによる街の散策はこれからも多くあつていいと思うが、ツアーの人がいなくても散策ルートが形作られ、気持ちよく歩く環境が整備され、多くの蔵にいろいろな目的で入れるようになれば地元の人や散策に訪れる人も増えると思われる。

・そもそも行田の魅力は特有の歴史に彩られた魅力にある。戦国時代の戦の舞台であり、忍城の城下町としての歴史がある。またはるか古代から地域の中心として栄えその遺産を数多くの古墳群に残している。行田の中心市街地の魅力がアップを考える場合もいわゆる中心市街地部分のみに限定することなく、このような地域の環境資産との関連やネットワーク化を考えるべきと思う。足袋蔵の存在は行田市が城下街として持っている歴史資産をさらに多様にするものであり、今後さらにスポットライトをあてる必要がある。

・歴史的な魅力を除いても行田は多くの河川や見沼代用水、武蔵水路と豊かな水辺環境に恵まれており、街の散策ルートの一つに水辺環境を組み込んではどうだろうか。

19 行田の中心市街地活性化策についての提案

○行田の持つ歴史を一連の流れで感じられるコース

・活用されているものには、活気が感じられるものなので、使われていない蔵をお店やギャラリー（一般向けのものであれば、学生など需要は高いと思う）として活用していけないか。

・地元小学生が地元を知るに際しての勉強の場として何かできないか。

○翠玉堂のパン屋のように、蔵だけでなく長屋等を改修して、若い方で事業を立ち上げたい人たちを呼び込んでいくと、次第に各年齢層の方が中心を歩きだすのではないのでしょうか。大阪の空堀のまちづくりなんかが参考になるのでは。

○元気で若い人を入れていく事。しかし、街なかにはあまりいない。よそ者で若者を積極的に入れ、街なかの人と交流させていく仕組みが重要。もの大との連携は非常によいと思う。高齢な

商店主ではリスクを採らない。パン屋などの活用が柔軟に出来る仕組みをつくる事。真っ先に
する事は、中規模程度のイベントを繰り返し行い、街なかに人を呼ぶ事。観光ボランティアを増
やし、一定のコースを案内できる方策を考える事。

○・秩父鉄道行田市駅をもう少しなんとかしたい。例えば、正式に名前を変えるのは費用がか
かるので、行田市(武州忍城下町)のように、かっこ書きでも良いと思う。

・秩父鉄道沿線の加須、羽生などと連携し、足袋・旅きっぷ(たびたび)をつくり、歴史と食(ゼリ
ーフライ)を味わうコースをつくり、中心部を歩く人を増やす。加須や羽生にも同じような資産が
あると思う。秩父鉄道の増収になるような企画だと協力すると思う。

○商店街の活性化は、簡単には出来ないと思う。表の通りよりは、むしろ、裏通りに面した蔵や
建物の活用を考えて、街を裏から変えることを考えた方がいい。特に重要なのは、やる気のあ
る若い人を活かすことであり、そういう人達が裏通りでユニークな店などを始めて、それらが面
的に広がれば、中心街はもっと面白くなると思う。

○・Café 閑居や翠玉堂のような、地元の方がよく行く魅力的なお店を増やすこと。歴史的資源
を活用した地元の方に人気のお店がよそ者にも魅力的です。大型バスで1時間だけいて帰って
しまうわべだけの観光に走らないこと。

・足袋蔵スタンプラリーなどの実績がありますから、秩父鉄道、東武鉄道、JR等の駅から町歩
き、或いはバス路線の活用した企画を年間を通して実施する。

・資源はたくさん有ります。それをもっともっと磨いて情報発信です。

○活性化を図るには、市民、NPO、市がよく話し合い、地域が一体となることがまず大切では
ないか(NPOがリーダーであることは素晴らしいことであり、その上で、です)。まずはもっと来
街者を増やしたいところ。知名度を上げるため、足袋にもっとこだわり、和服を含めたイベントや
体験など「足袋」の名をもっと売り出すことが必要ではないか。また蔵など古い街並みとしてで
は、隣県の他の地域(足利、桐生、栃木など)や鉄道と連携するなどの工夫をして、できるだけ
行田を知ってもらう機会を増やすことが必要ではないか。

○「足袋蔵」はすでにそれなりの市民権を得ていると思われませんが、行田市として中心市街地
活性化の方向性を据えるには、市民との協働が繰り返されることが重要と考えます。そのた
めの布石としては、「よそ者、若者、ばか者」による「とりあえず試しに楽しんでもみる企画」をいろ
いろ積み重ねて、徐々に市民を巻き込んでいくとよいかなと思います。

蔵など歴史的な建物がたくさんあるうち、立地条件(かなり大事)や権利者の協力度、ライフ
ライン整備のしやすさなどから、使い方をふるい分けて重点投資して拠点とする手もある気がしま
す。

○人通りが少ないことが気になったので、商店街を含め蔵を活用したイベントの実施をしたらど
うか。

・酒屋の蔵で「利き酒大会」

・空き家の民家で幼児から高校生くらいまでのみんなで助け合う合宿(荒川区では小学生が
「合宿通学」というのをやってます)

・蔵ごとに地域の大人も子供も参加して、「お化け大会品評会」(各蔵でお化け大会を競う)

などいろいろ考えられるが、住んでいる人が参加して楽しむ催しがいいと思う。定着すれば外か
ら面白がって来る人も出てくるだろうし、お金を落としてくれるようになるかも。

○・吹上からのバスはもう少し使いやすくしたい(時刻表・ルートを検索しやすく、バス停は屋根・

ベンチつきにしたい)、駐車場不足が深刻化する前に対応すべき問題。

・裏道のポイント・ポイントでトイレや休憩スペース(そうでなくとも何らかの歩く抵抗感をなくす工夫、古い地図に現在地を示した立看板とか屋台とか)がほしいと思う。金が無ければ、道路の占有や利用許可を柔軟化するだけでもよいと思う。

・行田市駅前、吹上駅前もう少し人口を集積させたい。

○高さ規制を行うこと。復元を少しずつでも手をつけること。全体のストーリーをつくること、歴史まちづくり法の適用はそのためにも良いきっかけになる。

○蔵、城、公園、古墳等の地域資源を上手く連携させる。観光を種とした交流人口の増加。

○・メインストリート・プログラムの行田版の作成・実施。・提案型コンペ形式の中心市街地活性化補助金制度の創設。・親子まちづくり学習イベント(大人になっても住み続けたい、子や孫に住み続けて欲しいまちづくりを広く周辺住民も含めて考え、行動する)の継続的な実施。

○・住んでいる人にとって住みやすく、歩きたくなる街をつくること。・歴史的遺産が街の中で感じられる方法を考える。・車の利用客が街の中を歩くように誘導すること。

○①中心市街地の活性化とはどのような状態だろうか。当日の話し合いのなかでの朽木さんの「観光地化は望んでいない」発言には心に残るものがある。ではどんな状態なのか。車社会になり、買い物の場所は市の中心商店街でない。中心地にある鉄道の駅の利用者もそれほど多いわけではない。娯楽の場所も市内各地に点在しているのが現状である。住んでいる人や勤めの人には必要に応じて、郊外のショッピングセンターやスーパーで買い物をし、必要な食事や娯楽の場所をピンポイントで訪れている。自ずから普段中心市街地を歩いている市民の人の数は極めて少ない。自然な流れともいえる。たとえば中心市街地をあるいて、わくわくする要素がどの程度あるのか。快適に歩くことのできる空間が物理的に確保されているのだろうか。

しかし、それでも行田の市街地には市民、市民以外の人々にとって、郊外のショッピングセンターやスーパーとは異なって、歩く魅力の素材がある。それは歴史の痕跡であり、これまで多くの人がそこで暮らしてきた息吹の名残かもしれない。理由があって中心市街地から離れていった人を呼び返すには、またそれなりの理由がなくてはならない。観光地化を望まないという気持ちはそこに住んでいる市民がまず楽しめる街づくりをすべきであるという意味で理解できるが、市外からの人を呼び込む工夫はやはり必要であると思う。

歴史の痕跡の発見とは小さな非日常の発見に似ているのではないか。郊外のショッピングセンターは日常生活の効率性を追及したひとつの結果という気がする。それではそのショッピングセンターから人々を連れ戻すのはどうしたらよいか。中心市街地に隠れている小さな非日常をもう一度見えるようにする必要がある、足袋蔵活用や中心市街地でのイベント開催の意味もそこにあるのだと思う。

市外から人を呼び込む方策として具体的に2点ほど記述したい。

一つ目として、観光バスでの周遊コースに行田をできないか。要素としては、ア古墳公園 イ忍城郷土博物館 ウ足袋蔵めぐり エ利根大堰 オものづくり大学 カ古代ハス(期間限定)があり、このうち2〜3コースを選択し、プラス適当な食事ところをセットすれば県南地域や東京からの日帰りコースとして成立するのではないかと思うので、これを旅行会社に売り込んでどうか。また足袋蔵めぐりコースは必ず組み込めば一定の人が新たに中心市街地を訪れるようになり、自然に新たな店舗が誘致されると考えられる。今は中心市街地の散策人数が少ないから店舗の新規立地が難しい状況なので、この連鎖を新たにする必要はある。この事務は栗代蔵

に設置する「まちの駅」のなかに「足袋蔵旅事務所」が業務を行う。

二つ目として、週末等の休日は極力イベントを開催する。なるべく手間とお金をかけなくてできることを検討する。栗代蔵に隣接するスペースに大型テントのイベント会場を整備し、中高生の吹奏楽、バンド、大道芸パフォーマーを呼ぶようにする。また定期的に骨董市やフリーマーケットを開催する。(骨董市については浦和のコルソに入っている人(名前は調べないと分かりません)がいます。フリーマーケットについても環境や公園関係の行政機関にはそれなりの中心団体の名簿があると思います。)

②今回のような蔵探検ツアーを継続かつ定期的に行きたい。蔵の中に入れるか否かで印象が大きく変わります。入ることができれば好印象間違いなしですから、入れる蔵、利用される蔵の数を増やすことが大事と思う。散策マップも市のホームページから探しやすいようにしたい。市内の人、市街の人が来やすくする必要がある。行田の中心地にくるのにはいろいろな方法(交通方法)があるがバスの利用が容易になる方法(周知、増発、バス停整備等)を検討する必要がある。併せて中心市街地を散策する人のための駐車場整備も必要である。

20 その他、今回の企画に対する意見・感想等

○行田に蔵がたくさん残っているのに驚いた。足袋工場はとても魅力的で、今度行くときはマイ足袋を作ってもらいたいです。行田は歴史と文化を持ったすばらしいまちであるだけにその良さを広め伝えて行けたらと思います。(T)

○中心地にのこる資産(建物・人・・・)が豊富なのにびっくりしました。まちづくりを推進する人(足袋蔵ネットワーク)も、街歩きの道具も揃っています。あとは、この人材、知恵と道具を活用して行田のファン(居住者・外部の人)を徐々に増やしていくことかと思いました。(I)

○ 色々な意見が聞けて本当に良かった。行田の素質が高い事も非常に実感。(T)

○足袋の用途開発をする。着物を着なくても履ける足袋をつくれませんか？。行田の入口が実は吹上だとは知らなかった。吹上駅でのPRも必要だと思う。次回は忍城、古墳群を回りたいが、歩いては無理か？。朽木さん、中島さんはじめぎょうだ足袋蔵ネットワークの皆様、ありがとうございました。(K)

○行田については、ほとんど知識が無かったのですが、こんなにたくさんの魅力的な資源とまちづくりの活動が行われていることを聞いて、非常に驚きました。案内の方の丁寧な説明と、忠次郎蔵のお蕎麦、café 閑居の居心地のいい空間などを満喫でき、とても充実したまち歩きだったと思います。フライを食べ損なったことだけが心残りです。(K)

○ごくろうさまでした。行田という、埋もれた魅力を持つまちを教えていただき、感謝いたします。魅力はたくさんあるので、ぜひ磨いていっていただいて豊かな空間を増やし、多くの人に楽しんでもらうようになって、賑わいや活気が少しでも復活することを期待しております。(G)

○丹念な解説を聞きながら歩くことができ、とても満足しました。ありがとうございました。街あるきを楽しむには、ガイドさんの存在はとても重要と実感しました。・・・美術館の音声ガイドのような街歩きガイドを作って、有料で貸し出すのはいかがでしょうか。 次回の企画を楽しみにしています。(S)

○はじめて行田に行きましたが、まちの中にお宝がたくさん眠っているように感じました。それがまだ磨かれていない状態です。自分の良さはよく分からないように、自分の住む地域の良さもよく分からないものです。でも大挙して現れた余所者には、よだれが出そうな宝がありました。そう

いうものを地域の皆さんが一度じっくり見直してみたいかがでしょうか。行田でしかできないことや見られないものもありますので、その辺をうまく押し出すというか「言い張る」というか、謙遜しないほうがいいと思います。

確かに買い物は近くに大商業地があるようだし不便はないと思いますが、小さい子供連れやお年寄りには自宅の近所でいろいろ楽しめたほうがいいと思います。楽しめる材料は事欠かないように思えたので、上手に資源を生かしてほしいと思います。(Y)

○朽木さん、中島さんの解説で大変勉強になりました。中心市街地活性化法、景観法、歴史まちづくり法などがうまく連携するためにも、今度はこれらの所管部署(市役所)の方も参加されることを期待します。(J)

○朽木さん、中島さんには感謝。(W)

○行田市の方、NPO法人の方々に解説して頂き、楽しく街を歩くことができました。また、行田のまちの雰囲気も下町のような親しみやすさもあり、よく、個人的にまた歩いてみたいと感じました。(S)

○蔵以外の地域資源も訪れたかった。(O)

○ 1日ゆっくり歩くことによって、街の良さがいろいろ見ることができてとてもよかった。その街を知ってもらうには、まず歩いて見るのが大切だと感じた(M)

○ 今回はご案内ありがとうございました。とくに中島さんのご説明はとってもひろく、深く、分かりやすく聞くことが出来ました。

足袋蔵という名称はキャッチフレーズ的につけたとのことで固有の特徴があるわけではないとのことでした。足袋が最初のうちは旅に思えてしまい、旅情のある蔵なんだと感じていました。それに蔵といいながらも住んでいる蔵と純粋に商品を入れておく蔵があって、住んでいる足袋蔵は蔵づくりの店舗兼居宅なんだとの考えに至りました。行田の足袋蔵はわれわれを歴史の旅と日常のなかのふとした非日常に誘ってくれる気がしました。とってもネーミングのよいたび蔵のいろいろな利用をこれからもっとたくさんみてみたいと思います。(O)

●ご案内いただいたお二人から：

○皆さんの鋭い観察眼に感心しました。様々な立場の方々の異なった視点でのご意見が伺えて、大変参考になりました。どうもありがとうございました。今後の企画については、観光関係や農業関係のまちづくりに関心のある方なども巻き込むとより面白いのでは？(N)

○皆様、流石に鋭い洞察力で様々なご指摘痛み入ります。まちづくりは成果が形に成るまでに時間が掛り、日頃の活動の中で痛感していることも多々あります。お時間が許されればですが、どう取組んでいるかまた経緯等もプレゼンさせて頂いてからまち歩きをして頂き参考になるご意見を頂けたらもっと良かったかなあと。丁度19日に県活のいきいき大学で105分プレゼンを行って来たばかりだったのでそのまま使えました(授業という名目でしたが)。(K)

●コーディネーターより：市役所の黒澤さんからURの佐藤さんへ、そして佐藤さんからTEKUTEKU埼玉担当？の私にお話があり、コーディネーターをお引き受けしました。実際はNPO足袋蔵ネットワークの朽木さん、中島さんのご案内のおかげで、足袋蔵や忍城城下町としての行田の魅力を私自身が再認識することとなりました。次回秋には市役所の正式企画も予定されているそうです。行田の街は意外と奥が深いので、是非またご参加ください。(F)